

# 小池環境大臣との座談会

～ 環境問題とレアメタル資源の確保 ～



*Photograph by Hidemi Shinoda*

環境省にて 2005年11月8日

中村：今回の選挙は大変でしたね。お疲れ様でした。

小池：有り難うございます。

中村：今月の閣僚人事で環境大臣留任となられたんですが、我々から見るとクールビズを推進されて日本人のライフスタイルやファッションまで変わったと思います。こんな大臣が出てきた事自体驚きです。



小池：繊維業界の方も喜んでおられます。ネクタイ業界の方の反対もありましたが、最終的には住み分けも出来て、いろんなファッションの創出につながったようです。ウォームビズは、クールビズよりも4倍のエネルギー削減効果があります。

中村：まさに日本人の知恵だと思いました。1979年に石油危機があってあの時、省エネルギーに知恵を絞った結果、燃費の良い車や省エネ家電の開発なんかを通じて、80年代の日本はピンチをチャンスに変えて見事に再生しました。これからは日本の環境技術で世界に貢献する時代ですね。

小池：その通りだと思います。環境技術は「人に優しい」日本人特有の一面があると思います。環境技術で世界に貢献する事は隣人のお役に立てるだけではなく、日本そのものが21世紀に再生し共生の時代を切り開いていくステップだと考えています。

中村：さて、今日は中国、ロシア、中央アジアの環境問題とレアメタル資源の確保について問題提起をしたいと思っております。実は昨年、レアメタルが輸入できなくなって、レアメタルパニックになりました。AMJはカザフからチタンスポンジを輸入していますが、今年も来年も玉不足でレアメタルが入って来なくなって困っております。欧米諸国は航空機に対応して早くから長期安定契約があるため、貴重な資源は根こそぎ持っていかれているのが実情です。カザフの石油資源もシェブロンが入ってきたし中国も国家レベルで資源確保に大変、力を入れています。

小池：日本は中央アジアやロシアの専門家がまだ少ないですし、手が打っていません。我々も7年前から「中央アジア研究会」を立ち上げて毎月、専門家を呼んで勉強しています。少しずつですが、関心は高まっています。

中村：東カザフ・セミパラチンスク州はレアメタル資源の宝庫でCIS全体の4割以上の非鉄資源が確認されています。協力関係では、日本のボランティアがセミパラチンスクの放射能汚染問題を取り上げています。日本も国家規模で環境協力と資源確保をワンペアで推進できないものでしょうか？

小池：そういった視点があっても良いでしょうね。ところでロシアの環境汚染の実態はどうですか？

中村：中国と比べると社会整備が整っているし、まだましですが、それでもノリリスクのニッケル工場なんかはSOXを撒き散らして北欧やドイツのシュバルツバルト（黒い森）が硫酸雨にやられてますよ。僕らから見ると、先進国がちまちました排出規制を決めるより、ロシアや中国の公害工場をピンポイントで支援したほうが実効は上がると思います。それから、極東の沿海州で日本は原水力潜水艦44艘の解体工事に200億円を支援していますが、ここから出てくるチタン合金は莫大な数量なんです。しかし、日本の国際協力はアンタイドなので、余りメリットがないように

見えます。プルトニウムで汚染されているところは、地中に埋めなければいけないんですが、リアクター以外の部分はリサイクルできます。これの一部を日本に持ってこれたらいいんですが。

小池：中村さんらしい発想ですね。AMJは、レアメタルの資源開発ばかりじゃなくてリサイクル事業にも進出されてるんですか？

中村：ニッチ（隙間産業）のアーバンマインを狙っています。今からは、中国やロシアからも出てきますから。

小池：「都市の資源開発」という事ですね。環境問題と資源問題を一挙に解決する訳ですね？  
先日は、モンゴルにいらしたようですが、モンゴルからは何が出てくるんですか？

中村：西のウラル・アルタイ地方にモリブデンやタングステンの鉱山があります。中国にばかり資源の供給を頼っていると危険だと思います。AMJは、キューバからもニッケルやコバルトを輸入しています。



小池：「急場しのぎ」と言うわけ？（笑）

中村：「ニッチもサッチも行かない」状態は避けないと駄目ですから。（笑）